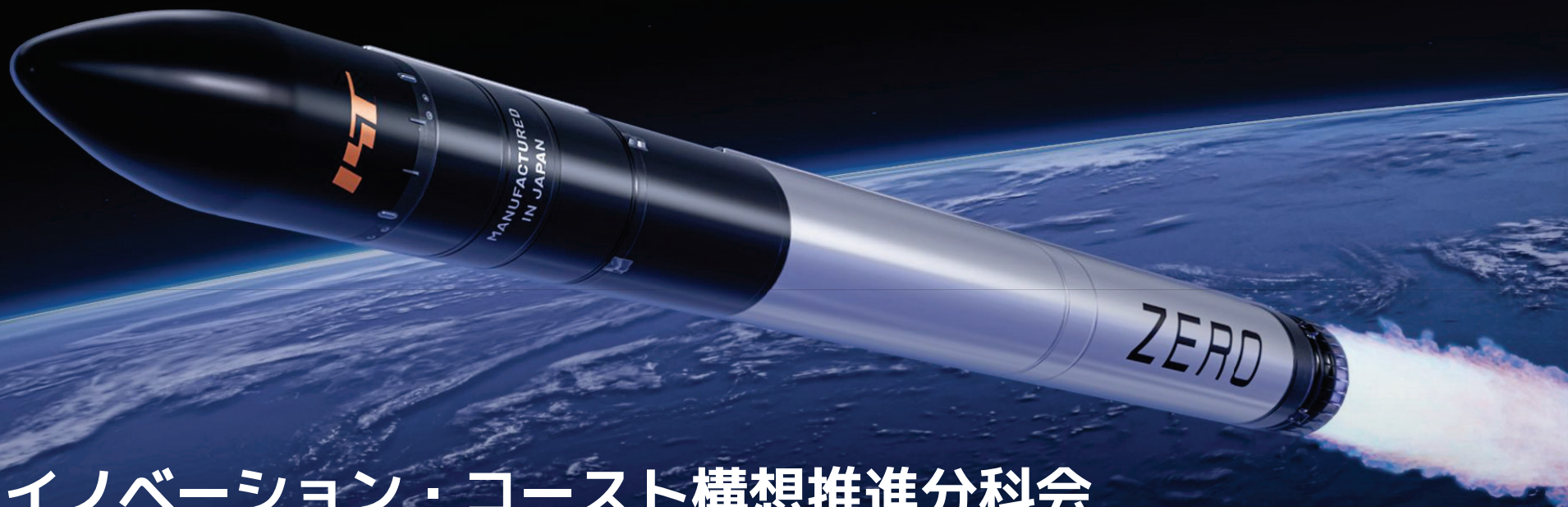




資料 6



# 福島イノベーション・コースト構想推進分科会 ご説明資料

インターステラテクノロジズ株式会社

# インターステラテクノロジズ株式会社

## 会社概要

- 本社所在地：北海道大樹町
- 拠点：東京支社、東北支社、帯広支社
- メンバー数：334人（2026年4月時点）
- 代表者：代表取締役 CEO 稲川 貴大 / 代表取締役 President 中山 聡
- 主要株主：ウーブン・バイ・トヨタ、丸紅、NTTドコモ、SBI、三井住友銀行

## 実績概要

- 観測ロケットMOMOは7回打上げ、計3回宇宙に到達。宇宙民間単独で国内初の宇宙到達を達成
- ZEROエンジンCOSMOSは国内唯一の商用メタンエンジン

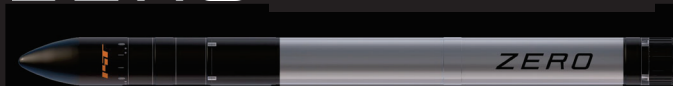


## 事業概要

垂直統合ビジネス



### ZERO 小型人工衛星打上げロケット



ON-DEMAND FLEXIBILITY COMPETITIVE PRICING

- 文部科学省のSBIR事業（最大140億円+α）で支援をいただき、技術開発進行中
- 福島県の地域復興実用化開発等促進事業等の支援施策も活用
- トヨタとZEROのモノづくり領域で業務提携
- 初号機の顧客決定、国内外の民間衛星を搭載



衛星コンステレーション+  
衛星フォーメーションフライトによる  
通信衛星サービス



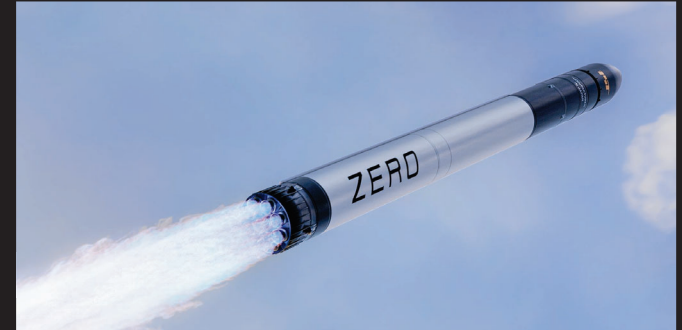
「ブロードバンド通信」で  
「デバイスとの直接通信」

- 総務省研究委託や宇宙戦略基金で研究費を確保し、研究開発を推進

## 官民から資金を調達

### 文部科学省SBIR 採択 (フェーズ3) 総額154.4億円の交付

・ 2つ目のステージゲート審査を通過 総交付額 154.4億円



### シリーズFで 総額201億円を民間調達

・ 国内非上場宇宙スタートアップで過去最大規模の調達額  
・ ウーブン・バイ・トヨタ、三井住友銀行、SBIグループ、野村不動産等



# 開発進捗



燃焼試験棟（北海道）



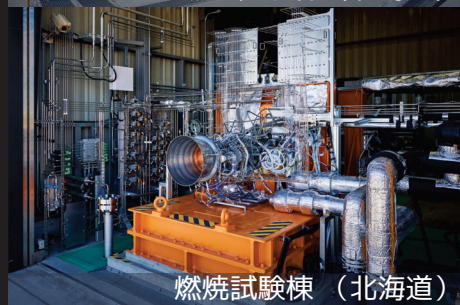
2段ステージ試験設備（北海道）



LC1推進剤プラント設備（北海道）



東北支社（福島県）



燃焼試験棟（北海道）



ターボポンプ試験設備（北海道）



指令所（北海道）



東北支社（福島県）



燃焼試験（北海道）



無線地上局（北海道）



構造試験棟（北海道）



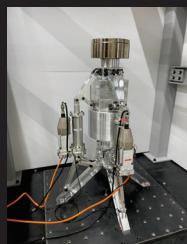
フェアリング試験（福島県）

# 福島県での開発の歩み

ロケット会社として  
初めて福島県に進出



ZEROの姿勢制御用ジン  
バル性能取得試験を実施



福島県「自立・帰還支援雇用創  
出企業立地補助金」に採択

2021

2022

2023

2024

2025

2026

福島県  
「地域復興実用化開発等促進事業」  
に採択

ZEROの  
衛星フェアリング分離放てき試験を実施

福島県南相馬市にて  
東北支社の建設を開始

東北支社  
稼働開始

福島県南相馬市と連携協定を締結



# 福島県での取り組み

## 地域の稼ぎ

- ・ **地域サプライチェーン構築**：進出後、既に浜通り地域の**地元企業22社**との取引を実現
- ・ **宇宙産業の振興**：電気系（アビオニクス）や機構系（分離機構等）の**製造・検査体制**を地元企業と共に構築。モノづくりを通じて、地域に産業振興と雇用の好循環を創出する

## 担い手の拡大

- ・ **雇用創出**：**工場機能を有した東北支社（南相馬市）を建設**し、既に**地元から複数名を採用**。事業拡大に伴い、今後さらに新規採用予定
- ・ **人材育成**：**南相馬市内の小中高校での出前授業を実施**。宇宙を身近に感じる体験を通じて、次世代の担い手を育成

## 日々の暮らし

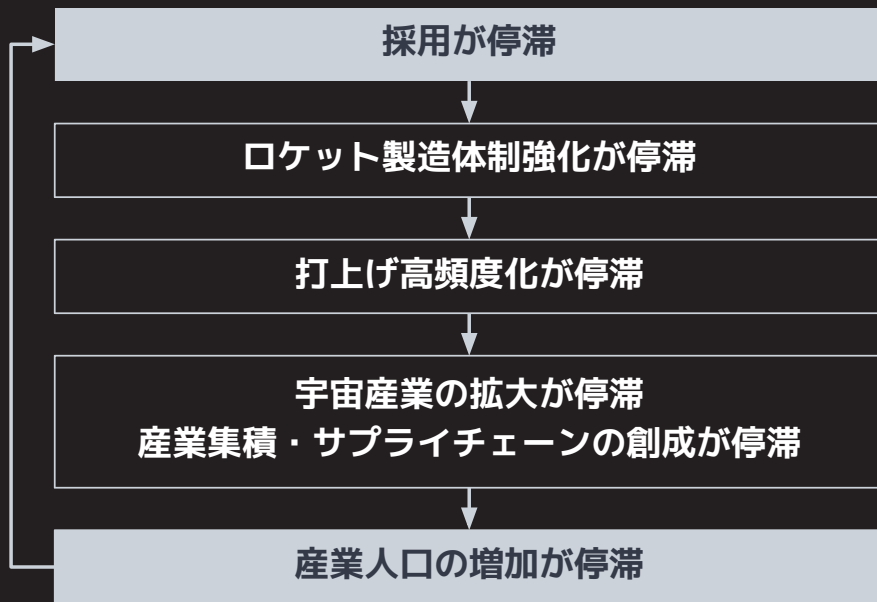
- ・ **県内全域への発信**：ロボット・航空宇宙フェスタふくしま（郡山市）等へも出展。浜通りから県内全域へ、宇宙開発の最前線を発信
- ・ **シビックプライドの醸成**：地域内で製造された部品が宇宙へ行くことで、住民の皆様のシビックプライド（地域の誇り）を醸成



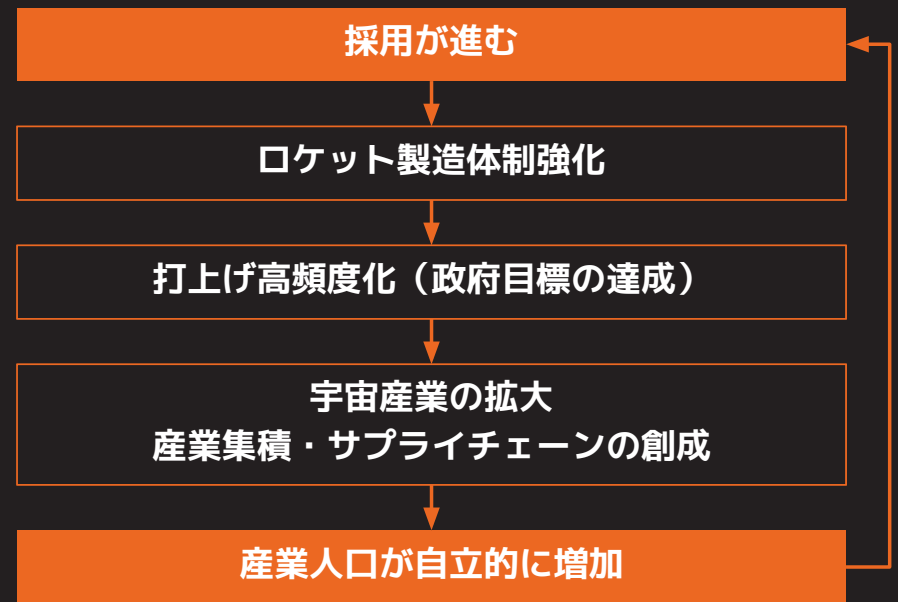
# 産業集積に向けた人材確保の課題

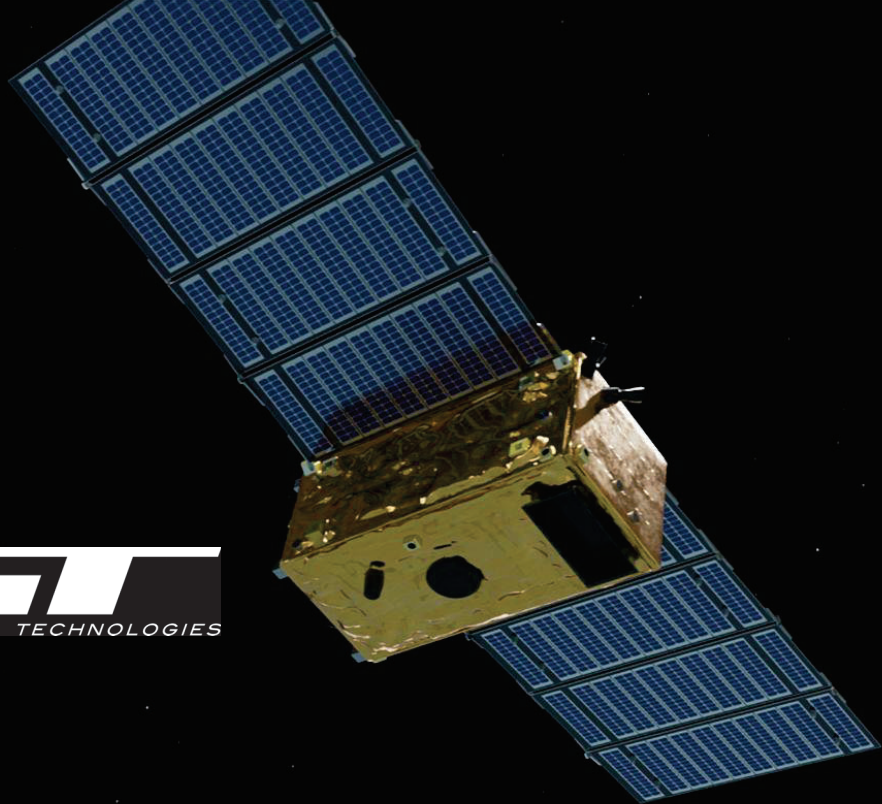
政府目標「年間30件の打上げ能力確保」への貢献に向け、東北支社を製造体制強化の主要拠点として開設一方で、人材確保には課題があり、地元人材の採用だけでなく、県外・近県からの採用も難航している産業集積・サプライチェーンの強靱化に向けて、さらなる移住・人材確保のご支援をお願いしたい

## 現状



## 目指すべき姿





**IST**  
INTERSTELLAR TECHNOLOGIES





# ZERO

目指すのは低コストで高頻度な、国際競争力を有する宇宙輸送サービス

## エンジン基数

一段目 9基  
二段目 1基

## 推進剤

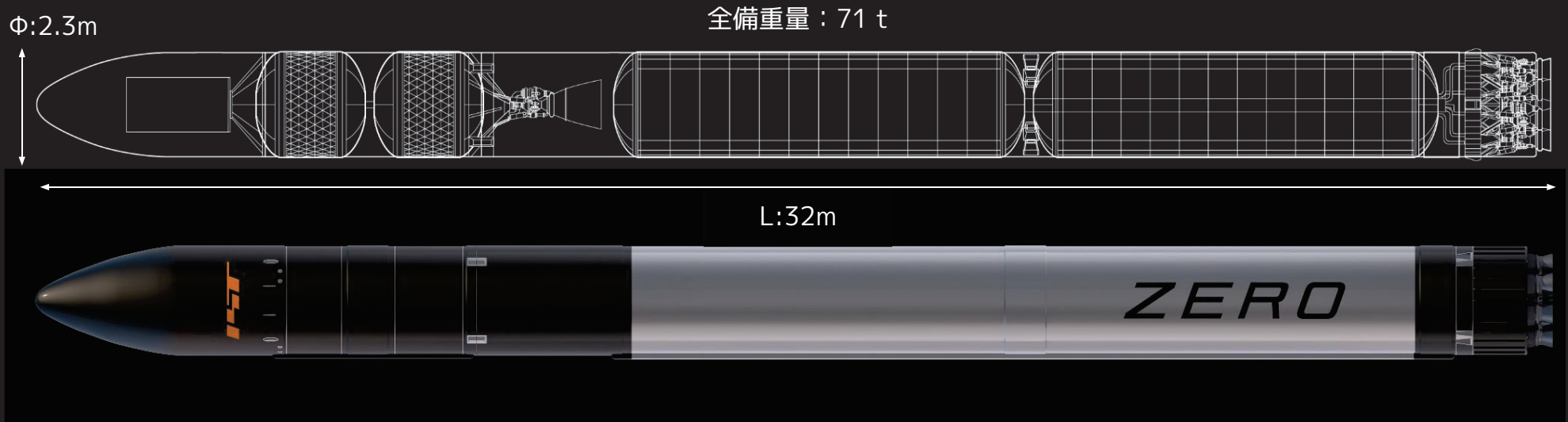
燃料：液化バイオメタン  
酸化剤：液体酸素

## 打上げ能力

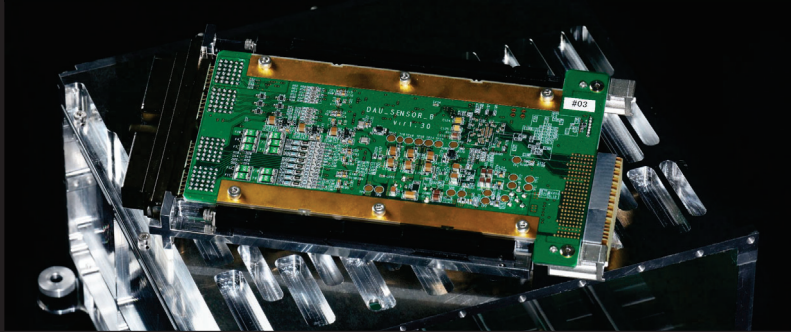
LEO：1,000 kg  
※将来最大能力

## 軌道傾斜角

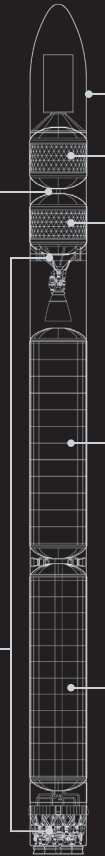
42.2° - SSO



# 主要コンポーネントを自社開発



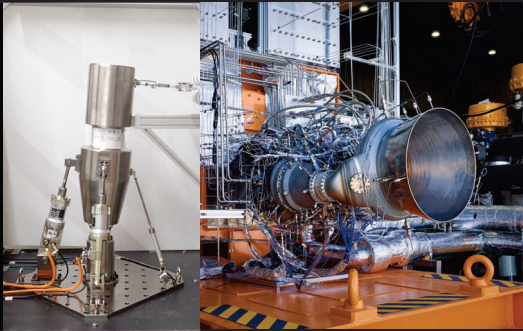
アビオニクス



衛星フェアリング

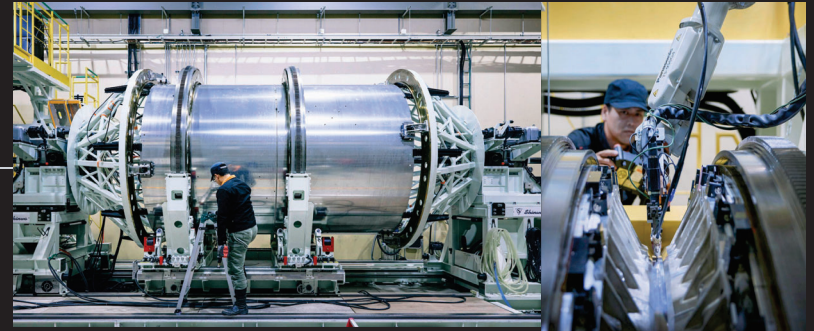


ターボポンプ



TVC

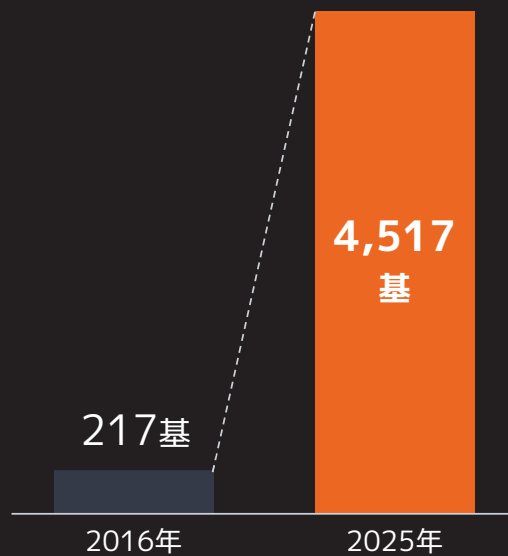
エンジン燃焼器



推進剤タンク

# 人工衛星の打上げ需要は飛躍的に増加 一方で、世界における日本のシェアは1%未満

## 人工衛星の打上げ実績



## 世界のロケット打上げ回数



出典：宇宙政策委員会 第122回会合提出資料

# 日本は打上げコストが高く、回数も少ない 国内衛星需要の9割が海外に流出

国内上場スタートアップ  
海外での打上げ実績

**93** %  
~2025年

国内スタートアップ  
海外ロケットとの契約

**55** 基以上  
2026年~

日本政府衛星の  
海外打ち上げ

**JAXA** も  
海外を活用



政府目標  
**2030年代前半に年間30機打上げ**

出典：各社プレスリリースを基にISTにて集計、革新的衛星技術実証4号機に関する記者説明会 説明資料